

使徒パウロが聖霊によって、コロサイ教会宛ての手紙を書いています。

**コロサイ 2:16-23**

- 16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。
- 17 これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。
- 18 自己卑下や御使い礼拝を喜んでいる者が、あなたがたを断罪することがあってはなりません。彼らは自分が見た幻に拠り頼み、肉の思いによっていたずらに思い上がって、
- 19 かしらにしっかり結びつくことをしません。このかしらがもとになって、からだ全体は節々と筋によって支えられ、つなが合わされ、神に育てられて成長していくのです。
- 20 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、
- 21 「つかむな、味わうな、さわるな」といったために縛られるのですか。
- 22 これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。
- 23 これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

私たちの理解を祝福して下さるように、神様に共に祈り求めましょう。

愛する天のお父様、今朝のこの箇所の御言葉を本当に感謝します。

主よ、どうかこの時間、途切れることなくあなたに集中できるよう、私たちの思いを静め、心を落ち着かせて下さい。そうすればあなたは御言葉の中で、御言葉を通して私たちに語り出すことがお出来になりますから。

そのために私たちはここにいます。

あなたは聖霊様の静かな小さい声で語りかけて下さいます。

主よ、お語り下さい。しもべは聞いています。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、律法主義という厄介なトピックについて語りたいと思います。

特に、律法主義がどのようにしてクリスチャンたちの生き方に高慢を生み出し、その結果、教会のいのちにダメージを与えるかに関して。

これが、コロサイ教会が抱えていた問題でした。というのも、当時そこにいた一部の人たちが信者たちに、ある種の律法主義的な要求を押し付けていたからです。

非常にタチが悪いのは背後にある動機で、彼らは宗教的祭りや特別な食物規定を守らない者たちより、自分たちの方が霊的に優っているとうぬぼれていたのです。

大げさな印象を与えないといいのですが、もし「クリスチャン人生と教会生活に於いて、最も危険で破壊的な原動力は何だと思えますか」と聞かれるなら、それは律法主義だと思えます。

これが、私がクリスチャン生活の初期の頃に知っていれば良かったと思っていることです。私はこの律法主義によって苦しめられました。その中で育ったのですから。

問題なのは、律法主義は現代の教会でも健在であること。

当時彼らが直面していたものと全く同じではありませんが、違った形で存在し、当時と変わらず今も危険です。今の方がもっとかもしれません。

律法主義は、イエスとイエスが私のためにして下さった事から焦点を逸らし、「すべきこと・すべきでないこと」リストに目を向けさせるからです。

今やキリスト教信仰は、律法主義に悩まされてしまっています。「これをするな」「あれをするな」「あれをしてはいけない」「あの映画を観に行ってはならない」「あの音楽を聞いてはならない」

それが律法主義。

律法主義という、押し潰されるような重圧の下で生きる事は、クリスチャンの人生にふさわしくありません。

だからパウロは、

**「つかむな、味わうな、さわるな」といったために縛られるのですか。(コロサイ 2:21)**

「するな、するな、するな…」私たちはもはや、そのようなために縛られていないのです。誰かと主について話している時に必ず出て来るのは、「クリスチャンとして、できる事とできない事がある」ではありませんか？

ノンクリスチャンが「クリスチャン生活はつまらない」と言うのは当然でしょう。

私は37年前にイエスを信じましたが、何が待ち受けているのか全く知らず、それから37年間、全人生と全時間をかけて、必死に持ちこたえて来ました。

クリスチャン生活は、ルールリスト「すべき・すべからずリスト」に格下げされてはいません。

パウロはその理由をこう説明しています。「それらは影に過ぎない。」

**コロサイ 2:17** これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。

このように考えてみましょう。ノートに書いていないので時間を取るかもしれませんが。

ここにはたくさん光があって、私の禿げ頭に反射しています。私の手の影が見えますか？

では、これはどうでしょうか。あなたが良く晴れた“ハワイの日”に帰宅して、玄関に向かって歩いて行くと家族が出迎えてくれた。ところが、地面にしゃがみ込んで、あなたの影をハグする。

くだらない例えですみません。でも要点は理解できたと思います。

「それはただの影、本体はわたしだよ」とイエスは言っているのです。

「あなた方はこの祭り、祝い、安息日に目を留めているが、それらは影に過ぎない。それらはわたしを示しているんだ。わたしがその影の実体だよ。」

店のウィンドウの前を歩くと、それに自分の姿が映りますね。皆さんがこんな風になっているのを知っていますよ。(髪をなで、ポーズを取る)

店の前を歩いて、その時ちょっと自分の姿をチェックするんです。覗き込んで。分かります

よね。

なぜそうするのかというと、自分の姿が気になるから。

自分の影がどんなかって、気にしますか？ 同じ道を歩いて、自分の姿が映っているのを見て「私の影、どんな感じかな？」くだらない例えですが、要点はつかめたと思います。

安息日は単なる影で、実体はイエス・キリストです。安息日の主は誰ですか？

安息日と呼ばれるこの1つの影に少し焦点を当て、時間をかけさせて下さい。

私はセブンスデー・アドベンチストで育ちました。

私が律法主義というものにやたらと詳しいのはそのためです。

しかし19歳でキリストを信じた時、全ての事の意味を本当に理解し始めました

すなわち、祭りや安息日は、イエス・キリストというお方を示していること、旧約の全ては、イエス・キリストというお方を指し示しているということです。彼こそが実体です。

今日、多くのクリスチャンの混乱の元になっている「ユダヤ人の安息日に礼拝すること」に関して、もう少し語っていきたくと思います。

皮肉を込めて言うと、私たちはセブンスデー・アドベンチスト教会を借りて、この事について徹底的に学びましたね。出エジプト記20章8-11節の十戒。十戒の第4番目を深く掘り下げて学びました。

**安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。(出エジプト記20:8)**

ウェブサイトのアーカイブページで、その時のアーカイブを見ることができます。

これが敢えて今日の学びの箇所に関係あるとするなら、安息日はイエスを指し示している影。聞いて下さい。安息日は成就されたので、私たちは今、様々な行いから安息することができるのです。

救われるために行いをする必要はありません。私たちは安息日に入っているのです。

ヘブル人への手紙の著者が言っています。キリストのことです。

**ヘブル4:9-11**

**9** したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。

**10** 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

**11** ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。

キリストの中に安息日の休みがある。イエス・キリストは安息日を全うされた。彼は安息日の主です。

**マルコ2:27** 安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。

私にとって、非常に助けになった例えがあります。

あなたがホノルルにいらっしゃいませ。すると標識が目に入る。「カネオヘ 13マイル」

Paliに近い所にその標識があったと思います。それはあなたの最終目的地、カネオヘを指し示している。

嬉しいですね。具体的に言うと、47-525 Kamehameha Highway にある Calvary Chapel Kaneohe. 脱線してしまいました。

その標識はあなたの最終目的地を示していて、あなたがカネオヘに着いた時、それは目的を果たしたのです。

標識は消えたのではなく、そこにあります。ただ、あなたに最終目的地を示すという目的を果たしたのです。

イエスが来られて、標識である安息日や祭りを全うされた時に。

ところで興味深いことに、この言葉の原語であるヘブライ語は、私の母語のアラビア語と全く同じです。

フェスティバル、祭り、神がイスラエルに与えられた7つの祭りは、ヘブライ語もアラビア語も同じ「モアード」で、基本的に「指し示す・定められた・予約」という意味です。

アラビア語ではこんな感じ。「アナ・アンディ・モアード・マアクーム」

悪い事は言っていないからね。そんな事しません。「あなたと会う約束（モアード）をしています。」

祭り（モアード）は、将来のこと、最終目的地を示しているのです。

初臨でイエス・キリストが目的地であるこの世に来られ、それらの祭り全てを成就されました。

試しに最初の3つの祭りを取り上げてみましょう。いいですか。嫌ですか。それでもやりますよ。

過越しの祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭り。それぞれイエス・キリストの死と葬りと復活。

それがこれらの祭りが示している事（モアード）で、イエス・キリストによって成就されました。

過越しの祭り。私たちは聖餐式をする度に、このことを話しています。

これは、エジプトにいた時の奴隷生活と束縛からの解放を祝って、イスラエルの民が行っている祭り（モアード）です。

彼らは子羊を取って、アダルの月の10日から4日間吟味します。4日間、子羊は裁判にかけられる。

子羊には何の汚点も欠陥も傷もあってはなりません。

それが何も見つからなければ、その子羊をイエスが十字架につけられたのと同じ時間の第9時に屠ります。喉を切り、体を裂く。骨ではありませんよ。体です。裂かれた体から血が溢れ流れ出ます。

次にヒソブの枝を持って来て、非常に興味深いことに、それを血に浸し、扉の上から下、左から右まで十字架の形に塗るのです。

ローマ人が最も残酷な処刑法である十字架刑を採用するはるか前のことですよ。

イスラエルの民がその無実の子羊の血を扉柱に十字架の形に塗ったら、10番目の死の災いをもたらす御使いが彼らを過ぎ越しました。

それは、十字架上のイエス・キリストというお方と、完了された御業とを示して（モアード）いるのです。

彼こそが私たちの過越しの子羊です。

イースト菌が入っていない種なしパン。イースト菌は罪の型なので、種なしパンは罪がないパン。

パンにパン種が入ってはならない。これは埋葬です。パンを埋葬する。実際はパンを隠します。非常に興味深いニュアンスです。

初穂の祭りはイエスが3日目に死からよみがえった復活。

これが3つの祭りで、影なのです。

だから私たちは過越しの祭り、種なしパンの祭り、初穂の祭りと五旬節を祝いません。

それからラッパの祭りと…いやはや、記憶が試されています。えっと、ヨム・キプールは大贖罪日で…

仮庵だ!! 主よ、感謝します。やれやれ、まだ大丈夫みたい。

最初の4つの祭りは、イエス・キリストの初臨の時に成就しました。

残りの3つは、携拳と再臨とイエス・キリストの御国の時代に成就します。主が支配される時に。

私が言いたいのは…、「要点なんてあるんですか」みたいな感じで見ていますね。ありますよ。要点は、それらは全部影。それらは全て、イエス・キリストというお方を示しているのです。わざを休む安息日は、救いを得るための行いからの安息を示しています。

イエスが成就して下さり、私たちはイエス・キリストの中に入ったので、安息日の休みに入りました。

しかし、まだ問題があります。

というのも、パウロがローマ書で書いているように、このような人たちがいたからです。

**ローマ 14:5-6**

**5 ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。**

**6 特定の日を喜ぶ人は、主のために喜んでいきます。食べる人は、主のために食べています。神に感謝しているからです。食べない人も主のために食べないのであって、神に感謝しているのです。**

彼は、「私たちはキリストにあって、土・日・月・火・水・木・金曜日に自由に礼拝できる」と言っているのです。そしてもっといいことに、今日の持ち寄りランチで、カルア・ポークを自由に全部食べることができるのですよ。

言い換えるなら、「すべき・すべからず」ではない。そうではなく、私たちの義の行い、働きは特権です。

「しなければならぬ」ではありません。

以前もお話しましたが、こう考えてみて下さい。何と云えばいいか…

これが私の脳の仕組みで、私のために祈って下さい。私の脳には医療用語が付けられているので。

私はこのように考えます。

(しかめ面で)「ああ、早く起きて、御言葉を読んで、神様と時間を過ごさなきゃならない」と言う時、神様はどう感じておられるのだろう。想像できますか?

あなたのお子さんやお孫さんがあなたの元に来て、こう言ったらどうですか?

(不承不承の感じで)「はあ…、一緒にいなきゃならない。」

「いや大丈夫。その必要はないよ。わたしと時間を過ごさなければならない、なんて思っただけで欲しくない。

過ごしたいと思っただけでほしいんだよ。しなければならないではなく、特権だと思っただけでほしい。わたしと一緒に時間を過ごすのが楽しみで仕方がない、と思われる存在でありたいんだ。」

律法主義はこう言います。「私は律法の下で、行いをしなければならない。」

一方、信仰はこう言うのです。「私は恵みの下で、行いをしたい。」

問題は、「オッケー。全てが恵み。キリストにあって自由。全部合法。全てが益になるワケじゃないけど、いつも全てが許されていると強調しているし。」「私はキリストにあって自由。恵みの下にいるのであって、律法の下にはいませんよ。だからあの映画を観に行きます。」今思い浮かんだ映画の事です。

確か最近 Netflix binge (ネットフリックス ビンジ / Netflix でドラマや映画のシリーズ作品を一気に観る事)、合ってますよね。

## I コリント 6:12

「すべてのことが私には許されている」と言いますが、すべてが益になるわけではありません。

これに関して、私が主との歩みで実に助けられた事について、良い言い方が見つからないので、リトマステストで言います。

私はこのように自問します。「私が観ている映画、聞いている音楽、築いている人間・友人関係は、私をもっと神に近づけるのか? それとも神から引き離すのか?」

これが私のリトマステストです。

音楽の事になると…というのも、私が救われたのはそれが理由で、本当に…悲しいことに、悪霊に憑りつかれていたのです。聞いていたサタンの音楽によって、私は文字通り悪霊に憑りつかれていました。

それが私のティーンエイジャー時代で、19歳の時に救われました。

私のがめり込んでいた AC/DC、ピンク・フロイド、そしてこれを言うと誰かを刺激してしまうかもしれませんが、ビートルズ、ローリング・ストーンズ、まだまだありますけど、ある人たちが福音を語ってくれて、これらのバンド、グループは全て、ロックンロールや名声、富のために、サタンに魂を売った事を教えてくれました。これは空想ではありません。現実

です。

それで「サタンが実在するということは、イエスも実在する」という結論に達する前に、私はサタンが実在することを知ったのです。

だから私にとって音楽は、昔からいつも問題なんです。

皆さんに、正直に赤裸々に話さなければなりません。

若いクリスチャンだった頃、お店に行って、いわゆるエレベーター・ミュージックというものがかかっていると、イントロを聞いただけでその曲の歌詞が全部分かりました。

今日でも、それらの曲の歌詞をひと言も間違えることなく言うことができます。まだ歌に入っていないくて、イントロだけなのに。

まさしく、(頭を指して)ここに敵がいるんです。

AC/DCの代表アルバム「地獄行きのハイウェイ」(Highway to Hell)の歌、「俺は地獄行きのハイウェイにいる。」

ここまで深入りするつもりはなかったのですが、もう手遅れです。我慢して下さい。

レッド・ツェッペリン(1968-1980)の「天国への階段」(Stairway to Heaven / 1971)、知っていますか?

今でも不朽の名作です。

あの曲が作られた当時、ロバート・ブランとジミー・ペイジはイングランドで、アレイスター・クロウリー(1875-1947)という名前の自称悪魔崇拝者が所有する屋敷で暮らしていました。

ところで、ビートルズの「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」(Sgt. Pepper's Lonely Hearts Club Band / 1967)

サージェント・ペパーはバンドに演奏を教えました。それが誰か知っていますか?

アレイスター・クロウリーです。

ジミー・ペイジとロバート・ブランとがあの屋敷にいる時、ジミーがロバートに「ペンを持って来て。

歌が思い浮かんだ。」と言いました。そして彼は「天国への階段」の歌詞を、一言一句書き記したのです。一言も変えていません。彼らがそう言ったと、ローリングストーンズ誌に書いてありました。

皆さんを不快にさせないといいのですが、言う必要があるんです。

私の内におられる方は、この世にいる者よりも偉大だと分かっています。でも言わなければならない。

今日に至るまで、私はあの歌を聞くと心を奪われ、殆ど催眠術に掛けられた感じになり、コードとリズムに惹きつけられます。意識が歌詞に集中しないように。歌詞は大したことありません。

私がこの話をしたくない理由は、非常にサタンの歌だからです。

もう1つあります。

私たちのドラマーのジミーと話している時に思い出したのですが、ビートルズではなくて…ポール・ハリスでしたっけ。あの歌の、ドラムを担当した…分かりますよね。

皆さんをフラッシュバックさせないといいのですが。自分もね。

♪ハ～レ～ル♪ ジョージ・ハリスだ。♪ハ～レ～ル～ヤ♪

「うわー、惹きつけられる。」心奪われ、催眠術をかけられ、気づいたら歌っている。♪ハ～レ～ル～ヤ♪いつの間にか歌っている。♪ハ～リ～クリシュナ♪ うわっ！（クリシュナはヒンドゥー教の神）

なぜ話がこっちに逸れたのか分かりませんが、誰かが今日、聞く必要があったのでしょうか。

あっ、なぜか分かりました。思い出しましたよ。

私はクリスチャンになりたての頃、音楽に関して律法主義に陥り始め、「そんなの、聞くな！」

行ったお店である種の曲が流れていると、そこから出て別のお店を探していました。

それくらい律法主義だったのです。

時間がかかりましたが、神様は私の内側に働きかけて下さいました。

今日に至るまで、私はクリスチャン・ミュージックが好きです。

今の一部のコンテンポラリー・クリスチャン・ミュージック（CCM）は…多分、歳を取ったからでしょう。子供たちは新しいクリスチャン・アーティストについて話してくれるんですが、私は「ワーオ」

私たちもそう言われた時がありましたね。

でも CCM は好きです。ワーシップソングも、もちろん聖歌も大好きです。

アラビア音楽も好きだし、ハワイアン・ミュージックも大好きですよ。

私にとって、それはクリスチャン・ミュージックではないとしても、私を主から遠ざけません。

昔は超律法主義者だったので、「そんな世俗的音楽は二度と聞かない！ サタンの歌だ！」と言っていました。それが今は…

恵みと行いについて、上手く説明できるといいのですが。最後にヤコブ書を開くのがいいかもしれません。

#### ヤコブ 2:14-19

14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがなければ、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。

15 兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、

16 あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。

17 同じように、信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。

18 しかし、「ある人には信仰があるが、ほかの人には行いがあります」と言う人がいるでしょう。行いのないあなたの信仰を私に見せてください。私は行いによって、自分の信仰を



なたに見せてあげます。

19 あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。

ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています。

私はヤコブが大好きです。皆さん、理解する必要がありますよ。

ヤコブはイエスの異父弟で、イエス・キリストの処女降誕の後に、ヨセフとマリアに生まれた息子です。

完璧な異父兄と一緒に育つのを想像できますか？

イエスの部屋はいつもきれいで、常に両親に従順している。そして、あなたはいつも彼と比べられる。

私なら…やめときます。私の問題は十分ですから。

でも、皆の顔色を気にせず遠慮なく「あなた方は立派だ。でもサタンも信じているよ。驚きだな！」

こう言うのはヤコブだけ。ヤコブが大好き。

私たちの学びは、多分携挙の前にコロサイ人への手紙、I・IIテサロニケ人への手紙、そしてヤコブの手紙に進みます。

#### ヤコブ 2:20-24

20 ああ愚かな人よ。あなたは、行いのない信仰が無益なことを知りたいのですか。

21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、行いによって義と認められたではありませんか。

22 あなたが見ているとおり、信仰がその行いととも働き、信仰は行いによって完成されました。

23 「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。

24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことが分かるでしょう。

言い換えると、恵みの下に信仰があるなら、行いはその恵みの証拠である。

主が良いお方であることを味わい見るなら、主に完全に心を奪われ、人生に於ける情熱や動機が高まっていくのです。恵みの下にある人生に、律法主義の居場所はありません。

祈りましょう。

天のお父様、感謝します。

主よ、私たちの行いは、それ自体が土台ではないことを感謝します。

主よ、私たちが恵みによって、信仰を通して救われたことを感謝します。

誰ひとり誇ることがないように、行いではなく賜物なのです。

主よ、あなたにあって、私たちが自由であることを感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

^ ^

「きょう、もし御声を聞かならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7  
メッセージ by JD Farag 牧師  
カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi